



インタビュー場所として指定された高鍋町内の美容室。店内には壁のあちこちに、独特の柔らかな筆致で書かれた書や詩などが飾られています。優しさを感じられるこれらの作品は、店内の一角にちよこんと座っていた有馬圭太郎（ありまけいたろう）さんが手がけたものです。緊張して照れながらも、元気に「こんにちは」と挨拶してくれました。彼の発する雰囲気から、彼と彼の作品がこの優しい空間を作っているのだろうと納得しています。

美容室を営んでいるのは、圭太郎さんのご両親です。お父さんの康志（やすし）さんが見せてくれたのは、小学6年生の時に書いた、かわいらしい「納豆」の書が入った表彰盾。なんでも当時の友達が唯一話せた単語が「納豆」だったそうです。圭太郎さんにとって人生初の書道だったにも関わらず、この作品は「第25回障害者による書道・写真全国コンテ

いま新富町のこの人が気になる

SHINTOMI-JIN

#015 今月の新富人

ダウン症書道人 有馬圭太郎さん

1998年生まれ、新富町出身。NHKハート展で入選し、TVドキュメントで放送されたことをきっかけに本格的に書道を始める。2017年からは書道パフォーマー「三步人」を結成し活動中。県内に留まらず、東京・大阪・北海道・石川などで個展を開催し、地元企業のロゴ作成も手がける。好きなものはガンバライドのカード集め、野球観戦、食べること。

圭太郎さんの個展には、さまざまな人が訪れます。同じダウン症の人、違う病気の人、その家族など。恩人から送られた「同じ境遇の人みんなの光にならさい」という言葉を胸に、「みんな」のために書くことを意識していると、圭太郎さんの作品に惹かれる人は多く、「ありがとう」と感謝されたこともあるそうです。

スト」で銅賞を受賞しました。翌年には第17回NHKハート展で詩「手」が入選し、圭太郎さんのドキュメント番組が制作されました。この放送を見た都城市の書道の先生に誘われた圭太郎さんは、本格的に書道を開始。次々と生み出される個性的な作品が「おもしろい！」と評価され、高校1年生で初個展。高校3年生の時には、3人組の書道パフォーマー「三步人（さんぽにん）」を結成します。今年の国文祭・芸文祭みやざき2020でも、書道パフォーマーの披露や作品展示など、積極的に活動が続けています。

ダウン症ゆえに大変なこともありま。書道パフォーマーは、たくさん練習しても筆をおいた瞬間「頭の中の文字が消えて真っ白になる」ので、声をかけてもらうなど仲間の助けを必要とする場面も。普段も家族にたくさん支えてもらっています。だからこそ、書いている最中は「家族や先生、三步人の仲間との絆を感じる」と圭太郎さんはいます。2019年に伊藤酒店から発売された「座論梅梅酒」のロゴ制作で、初めて町内で書の仕事を受けた。「これから新富との関係が少しずつ増えるといいね」と康志さんが語りかけると、圭太郎さんはめいっばいの笑顔で「うん！」と返事。これから新富で、どんなすてきな文字を見せてくれるか楽しみです。

●新富町でご活躍されている方を編集部までお寄せください。自薦・他薦は問いません。図総務課 ☎32・0196

お気に入りの文字「花」を書いた時の写真を持って。

